

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名 ※	ビジネスライフ学科
科目名※	観光ビジネスⅡ		単位数 ※ 2
開講学期※	2024年度後期	曜日・時限 ※	火曜・1時限
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	402
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中のキャリアアップステージに位置づけられます。		
授業目的※	<p>観光ビジネスⅠで学んだ観光ビジネスの理解を踏まえて、観光ビジネス関連の人材として必要なコミュニケーション能力やおもてなしマインドなどを学び、観光ビジネスだけでなく社会人として役に立つ人間力を高めることを目指します。</p> <p>担当教員が観光振興や国際会議の誘致などの実務経験に基づいて、インバウンドの事例紹介を行いますので、観光ビジネスにかかわる人材として求められるスキルなどの理解が深まります。</p> <p>訪日外国人客から評判の良い老舗料亭の若女将による「おもてなし英会話」など、観光ビジネスに従事しているゲストスピーカーの講義も行う予定です。</p>		
到達目標	<p>①インバウンドの取組み事例を研究することで、インバウンドの効果を理解する。</p> <p>②観光関連人材として必要なおもてなしマインドを高めることで、コミュニケーション能力の向上を図る。</p>		
授業内容 授業形態※	<p>以下の内容で進める予定です。</p> <p>第1回 インバウンド研究（1）</p> <p>第2回 インバウンド研究（2）</p> <p>第3回 日帰り旅行企画（1）</p> <p>第4回 日帰り旅行企画（2）</p> <p>第5回 日帰り旅行企画（3）</p> <p>第6回 おもてなし英会話（1）</p> <p>第7回 おもてなし英会話（2）</p> <p>第8回 おもてなし英会話（3）</p> <p>第9回 おもてなし英会話（4）</p> <p>第10回 おもてなし英会話（5）</p> <p>第11回 文化と観光（1）</p> <p>第12回 文化と観光（2）</p> <p>第13回 文化と観光（3）</p> <p>第14回 文化と観光（4）</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>*ゲストスピーカーによる講義は日程変更になることもあります。</p>		
評価方法※	レポート（40%）、実習（30%）、授業への取組み能動性（30%）を総合的に評価します。		
評価基準			
テキスト	指定なし。必要に応じて資料等を配布します。		

注意事項	観光ビジネスⅠを履修していること。 「ホスピタリティサービス」を受講することが望ましい。
授業シラバス	<a href="https://syllabus.cku.ac.jp/Syllabus/SyllabusConfirm.asp?cdsl=1916&amp;nendo=2024">https://syllabus.cku.ac.jp/Syllabus/SyllabusConfirm.asp?cdsl=1916&amp;nendo=2024</a>

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛大学	学部・学科名 ※	経済・国際学部
科目名 ※	言語学	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度後期	曜日・時限 ※	火曜 1限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	—
学修分野			
授業目的 ※	この授業では、言語学の基礎を学ぶ。身近に観察できるさまざまなことばの事象を取り上げ、それを理解するための枠組みを分かりやすく紹介することによって、言語学という研究領域における見方や考え方を知り、理解することを目標とする。言語学は、高校までの学校教育で学ぶ国語とは大きく異なる。人間がもつ言語というものの普遍的な性質や特徴を知ること、自分の母語とこれまでに学んだ外国語、さらに未知の言語の間にも共通性があることに気づき、新たな関心を持った理解が深まったりすることにつながる。言語学の下位領域(各論)における方法に触れることによって、ものごととのとらえ方(観察、分析、分類、考察など)についても学ぶ。		
到達目標			
授業内容 授業形態 ※	ことばやコミュニケーションに関心のある人の受講を歓迎する。 授業では、色々な事例をもとに、皆さん自身が観察したり、考えたりする時間が多くある。また、その結果を発言したり、他の例を出してもらうこともある。このような授業の進め方に協力できることが履修条件となる。 授業は対面形式ですが、オンデマンド授業を併用することもあります。		
評価方法 ※	授業態度(発言やコミュニケーション、提出物など)、毎授業後の小テスト、確認テスト		
評価基準	授業態度30%、小テスト40%、確認テスト30%		
テキスト	毎回、授業資料を配布します。		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 <a href="https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/">https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/</a> トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	コミュニティ政策
科目名 ※	現代社会論	単位数 ※	2
開講学期 ※	2024年度 後学期	曜日・時限 ※	火曜2限
キャンパス ※	千葉キャンパス	教室 ※	15-301
学修分野			
授業目的 ※	前期授業「社会学概論」で学んだ社会学理論を踏まえて、コミュニティを考えるうえでの大切な要件である、戦後の日本社会の全体的な持続と変動を理解する力をもつことを目指す。		
到達目標	具体的な現象を抽象的な概念を用いて把握することと、抽象的な概念を具体的な現象にあてはめることの往復的思考ができる力を身につける。たとえば、日常生活のなかで目にするもののある「援助」という現象を、複数の社会的概念で把握できるようになること。「権力」や「支配」といった概念であったり、あるいは「演技」という概念の適用も可能かもしれない。他方、「アノミー」「スティグマ」といった社会的概念をもって、日常生活の様々な現象を拾い上げるという方向での思考力をも身につけたい。		
授業内容 授業形態 ※	この授業は、前学期の「社会学概論」を受け継いで、現代社会について社会的に理解することをめざす内容である。 主として日本の戦後から高度成長期以降の社会、さらには現在進行形の社会を総体として把握するための理論および現象を講義形式により講述することを目的とする。前学期に学習した古典的な社会学理論のポイントの振り返りを含め、20世紀の社会学理論のいくつかを紹介する。トピックとして、リスク社会論、大衆社会論、産業社会論、管理社会論、情報社会論等を扱い、社会現象として、地域社会の変化、労働・就業、福祉、医療、若者文化、高度情報化、セクシュアリティ、人権問題等について、事例を示しながら社会的な分析を行う。 基本的には講義形式で実施する。アクティブラーニングとして授業の知識を随時確認するため、グループワークやペアワークを実施する。また、授業中に発言を求める。		
評価方法 ※	ほぼ毎回の事前事後学習によって評価する		
評価基準	事前事後学習の要提出物（小レポート）100点		
テキスト	テキストは使用しない。適宜、授業内で紹介、配布する。		
注意事項	事前事後学習を欠かさないこと。各回の該当欄に「【要提出】」と記載の場合は、基本的に2日後（木曜日）の16時までに「クラスプファイル」にて提出すること。それ以外の場合は別途指示する		
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 <a href="https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp">https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp</a>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	コミュニティ政策
科目名 ※	労働法	単位数 ※	2
開講学期 ※	2024年度 後学期	曜日・時限 ※	火曜2限
キャンパス ※	千葉キャンパス	教室 ※	15-202
学修分野			
授業目的 ※	労働者を取り巻く基本的なルールを理解し、労働関連法規の知識習得を図る。 社会に出る前に、働くルールを習得していくことを目指す。		
到達目標	労働関連法規の基本をマスターする。 学生自身が、いわゆるブラック企業を見分けられるようにする。 そのうえで、理想的な雇用環境の在り方について説明できること。		
授業内容	労働基準法、労働契約法、労働者安全衛生法、労働者災害補償法を中心に、その他、男女雇用機会均等法、パート労働法、派遣法も概説する。これらの知識をふまえ、労働者を取り巻く基本的なルールを理解する。加えて、今日的課題についても考察する。		
授業形態 ※	基本的には講義形式の授業を行うが、学生からの質問を求め、ともに考え、理解を深めていく形態もとっていく。身近な具体例や裁判事例の紹介も行う予定である。 授業の出席に際し、S-naviで配布するレジュメを印刷し、事前学習の上、参加して下さい。		
評価方法 ※	課題レポート、授業内試験により、総合的に判断する。		
評価基準	課題レポート60点、授業内試験40点とする。		
テキスト	「ベーシック労働法 第9版」(有斐閣アルマ), 浜村彰:唐津博, 有斐閣, 2023年		
注意事項	事前・事後学習を欠かさないこと。 授業前にクラスプロファイルにレジュメを格納しますので、印刷のうえ、授業に出席して下さい。		
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 <a href="https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp">https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp</a>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学	学部・学科名 ※	経済学部・経営学科
科目名※	流通論 II	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度後期	曜日・時限 ※	火-2
キャンパス※		教室※	2-201
学修分野			
授業目的※	<p>流通は、商品と人々をつなぐために必要な要素である。つまり、生産者の立場であっても、消費者の立場であっても、この仕組みが日々の暮らしの中で欠かせないということである。流通を理解することは社会やビジネスの中に存在する大きな流れやシステムを理解することにつながる。したがって流通の仕組みを学ぶことで、ビジネスを多面的に捉えることができるようになる。この授業では、流通に関する基本的な知識を学修していく。また、必要に応じて具体的な事例を参照し、仕事や働くということイメージしながら流通の世界を体感していく。</p> <p>なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【（知識、技能）（思考力、判断力、表現力等）】に資する科目である。</p>		
到達目標	<p>商学関連分野である、流通や商品の基礎的な知識が修得できる。課題を通じてさまざまな小売業態やメーカーのビジネスモデルなどを分析していくことで、現在起きている現象に対して自分なりの説明ができる。</p>		
授業内容	<p>第1回 イントロダクション：授業のスケジュールや内容について  第2回 小売業の諸形態：さまざまな小売業について  第3回 小売業態の新展開：特徴的な小売業のビジネスモデル  第4回 百貨店の特性：百貨店のビジネスモデル  第5回 百貨店のイノベーション：百貨店の課題と展望  第6回 スーパーマーケット：チェーンストアについて  第7回 コンビニエンスストア：フランチャイズ・チェーンについて  第8回 SPA：製造小売業について  第9回 マーチャンダイジング：店舗づくりのしくみ  第10回 VMD：ディスプレイについて  第11回 無店舗販売：無店舗販売の諸形態  第12回 流通と情報システム：インターネットと小売業  第13回 商店街とショッピングセンター：商業集積のマネジメント  第14回 まちづくりと小売業：まちづくりのこれから  第15回 小売業の課題と展望：小売業に関わるテーマを整理し今後の課題を検討する</p>		
授業形態※	対面		

評価方法※	<p>期末試験（70％）、授業内課題（30％）で評価する。期末試験、授業内の課題では、学修の成果を確認する。</p> <p>授業内課題は次回以降の授業でフィードバックを行う。</p>
評価基準	
テキスト	指定なし。
注意事項	<p>授業内では小論文形式の課題提出など、自分の考えを形にして表現する時間を設けるので、アウトプットを充実させるためにさまざまな事柄に関心を持ち、情報収集を心がける。</p> <p>講義資料と授業内容を合わせて自分なりのノート作成を行う。</p>
授業シラバス	<a href="https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1">https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1</a>

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名 ※	ビジネスライフ学科
科目名 ※	自然科学への招待B		単位数 ※ 2
開講学期 ※	2024年度後期	曜日・時限 ※	火曜・2時限
キャンパス ※	千葉経済大学短期大学部	教室 ※	203
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中のベースステージに位置づけられます。		
授業目的 ※	<p>「地球・太陽系・星・銀河・宇宙・・・（マクロの世界）」</p> <p>前期の「自然科学への招待A」に引き続き、理科（物理・化学・地学）的な眼で自然界を見ます。「自然科学への招待B」では、地球・月・太陽系・星・銀河・宇宙といった「大きな（マクロ）世界」に目を向けていきます。スライドや動画を使って、できるだけわかりやすく概念を伝えるような説明を行うつもりです。また毎月の星座や天文現象なども紹介します。</p> <p>マクロな世界について理解するには、ミクロな世界の知識が必要です。この科目を履修するために「自然科学への招待A」の履修を前提とはしませんが、できれば履修しておくことでより理解が深まるでしょう。</p>		
到達目標	<p>① 社会人として知っておくべき理科の知識と教養を身につける。</p> <p>② 身近なものごと・現象の理学的理解ができるようになる。</p> <p>③ 公務員試験「自然科学」分野の準備となる。</p>		
授業内容 授業形態 ※	<p>以下の内容で進める予定です。</p> <p>（履修者の状況により適宜変更する可能性もあります。）</p> <p>第1回 自然界のスケール  第2回 いろいろな星  第3回 太陽系の動き  第4回 星座  第5回 地球の形と運動  第6回 地球の内部  第7回 プレートテクトニクス  第8回 月  第9回 太陽系（1）  第10回 太陽系（2）  第11回 太陽系（3）  第12回 太陽  第13回 銀河系  第14回 星の一生と元素の生成  第15回 宇宙の大規模構造と歴史</p> <p>講義を中心として、PCによるスライド・資料提示を行います。</p>		
評価方法 ※	授業への取り組みの能動性（30%）、期末試験（70%）により総合的に評価する予定です。		
評価基準			



テキスト	指定なし。 毎授業時に資料プリントを配布します。
注意事項	必須ではないが、事前に「自然科学への招待A」を履修しておくこと、より望ましい。
授業シラバス	<a href="https://syllabus.cku.ac.jp/Syllabus/SyllabusInput.asp?nendo=2024&amp;cdbl=1530">https://syllabus.cku.ac.jp/Syllabus/SyllabusInput.asp?nendo=2024&amp;cdbl=1530</a>

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	帝京平成大学	学部・学科名 ※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名 ※	予防と介護	単位数 ※	2単位
開講学期 ※	2024年度後期	曜日・時限 ※	火曜日2限
キャンパス ※	千葉キャンパス	教室 ※	6-215
学修分野			
授業目的 ※	<p>わが国では平均寿命が延び、高齢化が急速に進むことで、高齢者のみの世帯が急増している。高齢者だけでご自宅で過ごす時間も長くなっているだろう。</p> <p>昔ながらの日本家屋は段差が多く、廊下や開口部が狭いなど、高齢者にとって安全で快適な住まいとは言えないことが多い。安心して、快適に、自立してすまうことができる。「福祉住環境」の視点が非常に重要であることは言うまでもない。その中核を担う人材として「福祉住環境コーディネーター」がある。</p> <p>そこで、本科目のねらいは、受講生が①「福祉住環境」の視点を理解し説明できること、②「福祉住環境コーディネーター2級」取得の意義を理解し説明できること、とする。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な福祉用具の選定、住宅改修の知識を持つ。</li> <li>・介護予防に必要な改善プログラムの基礎知識を持つ。</li> <li>・日商で行われている検定試験の福祉住環境コーディネーター2級レベルの知識を有することができる。</li> </ul>		
授業内容	<p>高齢者が住み慣れた地域で、主体性をもって自分らしく生活を最後まで続けることができるように「地域包括ケアシステム」という概念は、これからの地域ケアを導く先導概念として用いられている。この医療と介護、福祉にまたがる包括的なケアを実践していく上で、福祉と住環境の関連分野の基礎的知識について概説していく。医療・介護・福祉分野に関わっていく受講生にとっては土台となる概念であろう。</p>		
授業形態 ※	対面		
評価方法 ※	学修成果物（レポート課題、グループ発表など）：60% 定期試験：40%		
評価基準			
テキスト	東京商工会議所(編).福祉住環境コーディネーター検定試験 3級公式テキスト改訂6版.東京商工会議所		
注意事項			
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉明德短期大学	学部・学科名 ※	保育創造学科
科目名※	音楽表現演習Ⅱ（ギター）	単位数 ※	1
開講学期※	2024年度後期	曜日・時限 ※	火曜日・3限
キャンパス※	千葉明德短期大学	教室※	33
学修分野			
授業目的※	保育の内容・方法に関する科目		
到達目標	・ギターを弾きながら、10曲以上の「こどものうた」を歌う表現技術が身につく。また、独奏曲の演奏を通して、それぞれの楽器の特性を生かした演奏法が身につく。		
授業内容	保育の内容を理解し、展開するために必要な保育の表現技術の一つである歌唱およびギターを用いた弾き歌いの力量を高めることを目的として、少人数によるグループ授業を行う。こどもの歌の弾きうたいを通して豊かな感性や音楽的表現力の向上を目指す。授業では歌唱、授業内での実技発表、実技試験を実施する。		
授業形態※	演習		
評価方法※	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内の取り組み — 40%</li> <li>・課題曲の達成度・弾き歌いの実技試験 — 40%（実技試験を辞退した場合は単位不可となります）</li> <li>・音楽理論の筆記試験 — 20%</li> </ul>		
評価基準			
テキスト			
注意事項			
授業シラバス	<a href="#">第1回 夏休みの課題</a> <a href="#">第2回 メジャーコードによる弾き歌い1</a> <a href="#">第3回 メジャーコードによる弾き歌い2</a> <a href="#">第4回 メジャーコードによる弾き歌い3</a> <a href="#">第5回 音楽理論の基礎とコードネーム</a> <a href="#">第6回 伴奏パターン1</a> <a href="#">第7回 伴奏パターン2</a> <a href="#">第8回 伴奏パターン3</a> <a href="#">第9回 独奏曲</a> <a href="#">第10回 マイナーコードによる弾き歌い1</a> <a href="#">第11回 マイナーコードによる弾き歌い2</a> <a href="#">第12回 音楽理論の筆記試験、解説</a> <a href="#">第13回 学内コンサートへの参加と鑑賞</a> <a href="#">第14回 実技試験 リハーサル</a> <a href="#">第15回 実技試験・まとめ・2年次への課題</a>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛短期大学	学部・学科名 ※	現代子ども学科
科目名 ※	教育原理	単位数 ※	2
開講学期 ※	2024年度後期	曜日・時限 ※	火曜 4限
キャンパス ※	稲毛キャンパス	教室 ※	後日通知
学修分野			
授業目的 ※	幼児教育や保育のあり方について考察する上での基礎となる教育の本質、教育目的、教育思想など教育の理念について学習し、幼児教育や保育の現場に立つにあたって必要となる幼児教育施設への理解、教育観、子どもの発達観について講義を行い、基礎的な幼児教育の習得をめざす。		
到達目標	幼児教育のあり方の基礎となる内容－教育の本質、幼児教育の目的、幼児期の発達、教育思想など、また今日の幼児教育のあり方についてより具体的に理解できるように、幼児教育の内容や方法を理解する。		
授業内容	教育の本質的意味、教育の概念、子どもにとって遺伝と環境のもつ意味、教育の目的、教育の意義、子ども観の変遷、教育・教育思想の歴史、子どもを育む地域・家庭・学校との関係、子どもを理解するには、乳幼児期の子どもの発達、子どもが求める教育者・保育者とは		
授業形態 ※	対面形式		
評価方法 ※	講義形式と事例検討が中心となるので、主体的・意欲的な受講態度を求める。またともに学びあうことが可能になるような、主体的な学びとなるようにしたい。		
評価基準	毎授業課すレポート、提出物（80%）、授業態度（20%）をそれぞれ得点化し、総合的に判断する。		
テキスト	高野良子・武内清編著『教育の基礎と展開』（学文社）		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 <a href="https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/">https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/</a> トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名 ※	こども学科
科目名 ※	歴史への旅		単位数 ※ 2
開講学期 ※	2024年度後期	曜日・時限 ※	火曜・5時限
キャンパス ※	千葉経済大学短期大学部	教室 ※	304
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中の一般教養科目に位置づけられる。		
授業目的 ※	<p>歴史とは先を生きた人たちの痕跡です。それぞれの時代の人々は、どう生きてどう考えて、なにを生み出してきたのでしょうか。歴史のなかには、為政者の試行錯誤があり、権力者の欲望や嫉妬があり、民衆の苦難や生活や知恵があり、諸外国との関係があります。制度や法律、優れた知恵や技、時代ごとの美意識や表現、時代を動かす大きな流れもあります。私たちはそこから学び、いまに活かすことができます。本講は「暗記する歴史の授業」ではなく「歴史を手がかりに考える授業」を目指します。原始から近代まで、日本の歴史を大きく概観し、各時代の特徴をおさえながら、教育や子どもを含むいくつかの出来事・人・テーマをていねいに掘り下げて、ともに考えていきます。</p>		
到達目標	<p>歴史の面白さや大切さを知る。異なる時空間に生きた人々に出会い、理解し、考えるための方法を学ぶ。基礎的な知識を身につけて歴史から学び、歴史的に考えるための基盤を作る。歴史をいまに活かす視点、自分なりに考えていくための問いを育む。</p>		
授業内容	<p>第1回 イン트로ダクションー旅の始まり          第2回 人類の誕生と移動ー日本人はどこから来たのか          第3回 原始を生きた人々ー縄文・弥生時代から考える          第4回 言葉と共に生きるー文字の伝来・言霊思想・万葉仮名          第5回 国をつくる①ーリーダー・資源・大陸文化の受容          第6回 国をつくる②ー仏教・中央集権・律令体制          第7回 不安な平安貴族たちー遷都・仏教・もののけ          第8回 庶民を支えた鎌倉新仏教ー武士と戦乱の時代          第9回 戦国の世ー新しい秩序とリーダー          第10回 戦国の美意識と服装の歴史ーなぜ人は服装にこだわるのか          第11回 江戸の国づくり人づくり①ー徳川家康と近世封建体制          第12回 江戸の国づくり人づくり②ー参勤交代と判じ絵          第13回 近代国家をつくるー明治期の教育制度・翻訳・標準語          第14回 戦争・メディア・悪ー2度の世界大戦と「私」          第15回 旅の終わり、旅の始まりー史に埋もれ歴に生きた人々の横顔</p>		
授業形態 ※			
評価方法 ※	平常点（受講態度、授業への積極的参加度、リアクションペーパーなど）50%、期末レポート50%を標準として、総合的に判断します。		
評価基準			
テキスト	指定なし		
注意事項			
授業シラバス	<a href="https://syllabus.cku.ac.jp/Syllabus/SyllabusConfirm.asp?cdsl=3020&amp;nendo=2024">https://syllabus.cku.ac.jp/Syllabus/SyllabusConfirm.asp?cdsl=3020&amp;nendo=2024</a>		

※は必須記入事項